Stop TB Partnership JAPAN

平成25年度JICS　NGO支援事業

インドネシア　伝統芸能ワヤンによる結核のための啓発活動

2015年9月17日

ストップ結核パートナーシップ日本

活動の目的

インドネシアの伝統的影絵「ワヤン」を活用して、
結核の正しい知識向上を目指す。

公演までの流れ

① **事前調査　2012年1月8日～1月15日　　ジャカルタ、ソロ**
ワヤンについて
カウンターパートを探る

② **ワークショップ　2013年11月21日、22日　ソロ**
適切なメッセージを探る

↓ シナリオづくり

③ **公演実施　2014年2月23日　ソロ**

④ **事後評価会**
グループディスカッション
関係者評価会

} JICS

インドネシアの結核の状況

WHOが定めた高まん延国22カ国のひとつ

- 結核新規登録患者数：322,882人
- 結核死亡者数（HIV+TBを含まない）：67,000人
- 罹患率：10万対185
- 死亡率：10万対27　（出典　WHO：Global TB Report 2013)

結核患者の約70%が生産年齢（productive age)

約40年前の日本の状況　1970年罹患率10万対172.3

インドネシアの結核対策

国家結核対策プログラム(National Tuberculosis Program: NTP)のもと、National Strategic Plan(2002-6,2006-2010)の戦略を実施。

戦略4）**<u>患者教育の改善と地域社会の啓発</u>**

1.）アドボカシー/啓発活動（Advocacy Communication, Social Mobilization : ACSM）実施する為の人材育成

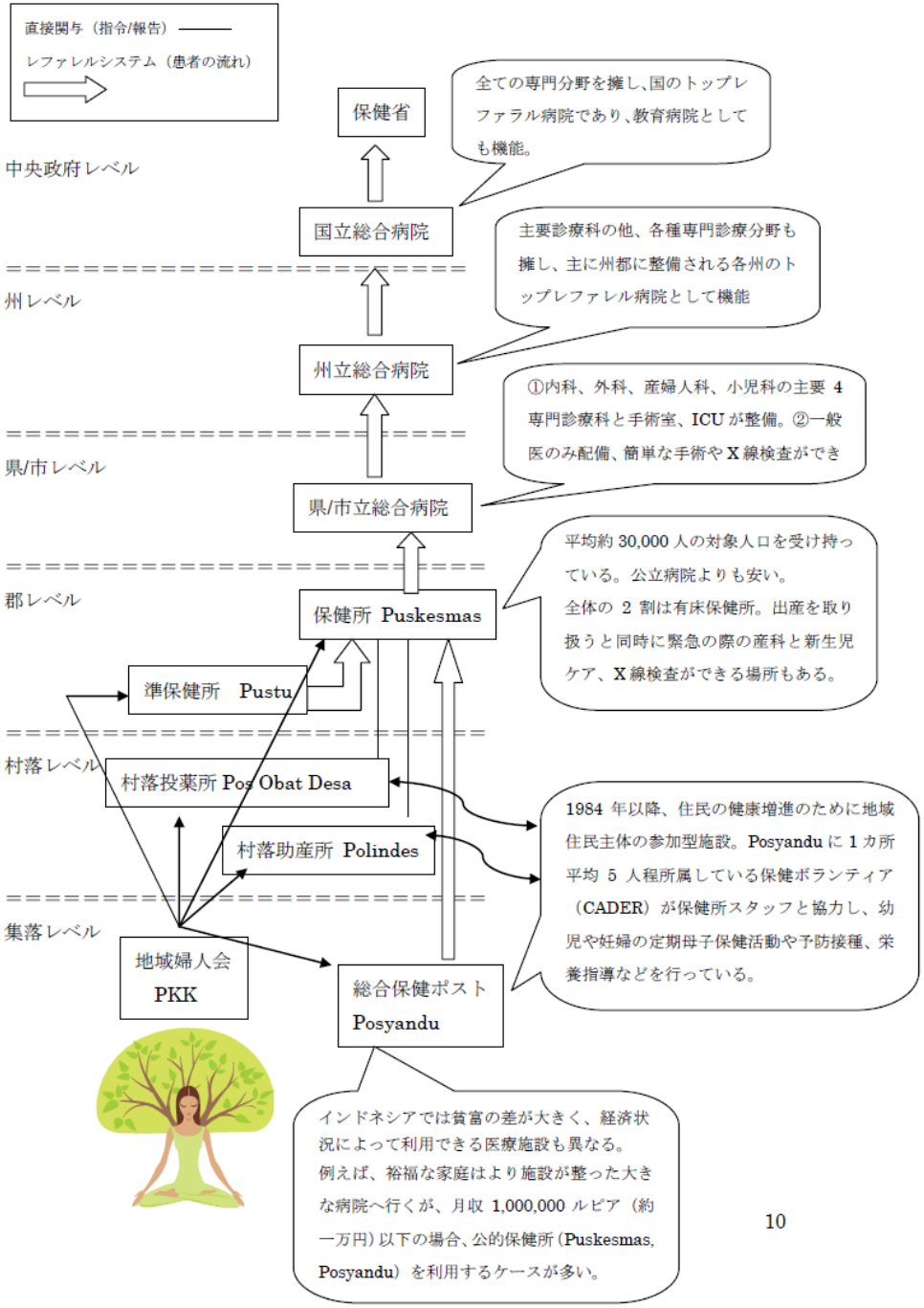
2.）メディアキャンペーンがある。すべての行政区の結核対策チーム（国、州、郡レベル）に対してACSMに係る研修を実施し、アドボカシー活動の為のモジュールやツール開発を行う。世界結核デーだけではなく、年間を通してのキャンペーンの必要性や地域別の言語ごとのキャンペーンツールの作成を計画している。

- 戦略計画（2010-2014）

2014年新しい保健大臣決定後作成予定。

参考

図 1.保健衛生行政組織



10

課　題

①　結核に対する正しい知識が浸透していない

→　特に経済的弱者にとって医療機関受診は、後回しとなり、
　　症状悪化、感染拡大につながる

→　差別などに繋がる。

②　保健所などで行われる啓発活動は、分かりづらい

▼

結核の正しい知識向上を目指す

活動の目標

- 結核の啓発活動を見た地域の人々の病気に対する意識の向上
- 結核の啓発活動に参加した人々の結核患者に対する差別・偏見の減少
- 保健ボランティアと地域の人々（感染の可能性のある人や患者の家族）とのつながりができ、早期診断や治療サポートに繋がること。

▼

<u>患者早期発見、長期治療の継続、差別・偏見の軽減</u>

参考

ワヤンを活用した理由

ワヤンとは・・・

ユネスコに登録された文化遺産。
インドネシアのジャワ島を中心に千年以上の歴史をもつ伝統芸能。
ストーリーの題材の多くは、インドの叙情詩「マハーバーラタ」や
「ラーマヤナ」などから採られ、ジャワ語で行われる。
ダラン（人形使い、進行役）一人によって、人形の操作やストーリー語り、
音楽（ガムランや歌など）の指示を行う。 誕生、成人、といった人生の節目
や町や村の節句などの場で厄払いや魔よけの意味を持つ。

上演は大きな公園や講演会場のほか、大きな民家などが一般的である。
夜9時ごろからはじまり、朝方（従来は4時ごろまで。最近は2時ごろまで
が多い） まで行われる。 会場のまわりには、食べ物やおもちゃなどの
屋台が出て縁日のような賑やかさがあり、地域の大人から子どもまでが
集まって楽しむ場となっている。

ワヤンを活用した理由

① インドネシアの文化、生活、思考様式に根付いている。

② ダラン（人形使い、進行役）の人々への影響力が大きい。

③ 様々なメッセージを楽しく伝えることができる。

ワヤンを活用した理由

<u>エンターテイメント・エデュケーション（E/E）</u>

・マス・メディア（テレビ、ラジオ、音楽）を通じて娯楽的かつ教育的なメッセージを意図的に　企画し、実施する。
・「行動変容を起こす動機づけとして、新しい考えの認識からその考えに対するポジティブな態度の形成を通して、その考えの導入と実践に至る過程を示す。」
・視聴者は仲間同士の会話を誘発する媒介的な効果があり、互いが話し合うことを促す。
・教育的問題について視聴者の知識を深め、好意的態度の形成、顕著な行動の変化を目的とする。

上、右：ワヤンを上映するダラン（人形使い）とワヤンの上演とともに演奏する様子

参考

①　事前調査

外務省平成23年度NGO補助金による調査
期　間：2012年1月8日～1月15日
調査地：ジャカルタ、ソロ

目　的：

1　今回の企画に適したワヤンの選考
　　伝統的ワヤン？　現代風にアレンジしたワヤン？

2.　カウンターパートを探る

参考

② ワークショップの開催

日時：2013年11月21,22日　場所：ソロ市

参加者：PPTI（本部、ソロ支部）、ソロ市保健局、平山先生、下谷

目　的：　1. ストーリーに入れる要素

2. コアメッセージ

3. ワヤンの方向性決定

参考

ストーリーを作成するにあたり考慮した点

- 伝統的「ワヤン」に登場するキャラクターや物語の要素を踏まえながら、結核の情報を入れ込みオリジナルのストーリーを作成する。

- 結核対策従事者とワークショップを実施し、日常のエピソード聴取し、現実的であり、共感できる要素をストーリーに織り込む。

参考

コア　メッセージ

① （病気が）完治できる
② 薬は無料である
③ 結核の治療は、周囲への感染を減らす

参考

オリジナルストーリーづくり

ワークショップの結果をもとに、ダランに伝統的「ワヤン」の物語を踏まえたストーリー作りを依頼したが、2014年1月5日にグンドノ氏が病気で急死し、甥であるワルヨ氏に代役を依頼。グンドノ氏が9割完成させていたシナリオを完成させた。

故スラメット・グンドノ氏（享年48歳）

スリ・ワルヨ氏　（36歳）

公演実施

日時：2014年2月23日（日）9：00-12：00
場所：ソロ（スラカルタ）市内　　スリ・ウダリ（会場）
観衆：およそ500名
内容：ダラン　スリ・ワルヨ氏を中心としたワヤン
　　グループ「Wayang Suket」による上演。

ワヤン・クリ（影絵）、ワヤン・ゴレッ（人形劇）、ワヤン・オラン（演劇）の３種類が混合された作品。音楽も伝統的ガムランなどに加えてバイオリンやギター等が加わりアレンジされていた。演出は冗談を交えた楽しい内容であった。保健所からは、結核対策を行っている医師と看護師が演劇に参加し、コアメッセージを伝えたり、観客とQ&Aを実施したりした。

会場「スリ・ウダリ」の入口

ポスター

観客の様子

始まり前の音楽（ガムラン）

医師と看護婦によるQ＆A

PENTAS BUDAYA

Wayang Suket Gaya Baru Makin Dinamis

Maharani Nur Afifah

Sepeninggal Slamet Gundono yang berpulang awal Januari lalu, Komunitas Wayang Suket kembali melanjutkan perjalanan. Meskipun "motor" penggerak utamanya telah tiada, barisan "gerbong" pendukung pementasan yang biasa berkiprah di samping dalang, kini bergeser maju ke depan.

Pertunjukan wayang multimedia dengan lakon *Gunadewa Pulih*, yang digelar di Pendapa Sriwedari, Solo, Minggu (23/2), menjadi tonggak awal kebangkitan komunitas ini. Menggusung semangat gerilya budaya yang sama, pementasan ini belum meninggalkan ciri khas wayang suket.

Bersambung ke Hal. XIII Kol. 4

Foto/Ardianyah Indra Komala

Pementasan karya terakhir dalang wayang suket Ki Slamet Gundono dengan dalang Ki Waluyo di Pendopo Sriwedari, Solo, Minggu (23/2). Pementasan lakon *Gunadewa Pulih* tersebut untuk sosialisasi pencegahan dan penyebaran penyakit Tb (Tuberkulosis).

ソロボス　2014年2月24日

文化公演欄

新様式の藁ワヤン、益々ダイナミックに　　マハルディニ・ヌルアフィファー

（ソロポス、第1面から13面に続く。2014年2月24日）

先月のスラムット・グンドノ逝去後、藁ワヤンは再び活動を再開した。一番前の機関車はもういないが、普段はダランの脇で活躍していた上演補佐役の車両が前に進み出ることになった。

ソロのスリ・ウダリで日曜日（2/23）に「グノデウォの回復」という演目で上演されたマルチメディアの藁ワヤンは、このコミュニティ復活の最初の礎（いしづえ）となった。同じ文化のゲリラ士気を掲げ、この上演は藁ワヤンの特徴を失っていない。藁ワヤンの特徴とは、一つの上演の中で、現実や健康問題とワヤンとの壁を突破することである。

趣旨が同じとはいえ、醸し出される雰囲気が同じというわけではない。かつてスラムット・グンドノは主役で、1人で語り、劇を演じ、歌うダランだった。この地位が、今や継ぎ当てで補填されようとしているのだ。新様式の藁ワヤンは、益々ダイナミックに見える。

ダランとしてはキ・ワルヨが皆の信望を集めた。音楽は藁ワヤンコミュニティの仲間が演出した。この上演にスパイスを加えるために、マクス・バイハキ、ドゥル・スンビン、ハニンダワンなどの経験豊富な芸術家が招待された。

「グノデウォの回復」という演目は、社会に結核についての自覚を促すため、公衆の場所で上演された。スラムット・グンドノは、亡くなる前に藁ワヤンコミュニティと共に、非営利団体であるストップ結核パートナーシップ日本とインドネシア結核予防会ソロ支部により結核予防の使者として指名される栄を得ていた。

キ・ワルヨは、上演の初めに、ワヤン・ゴレッとワヤン・クリットの両方を上演できる携帯用ワヤンセットに乗って登場した。トゥガル出身のこのダランは、グノデウォの背景を描く場面を繰り広げた。彼は身体中に毛が生えていた上、うつる病気に罹っていて不吉と見做されたため、隔離されていたと語られる。

藁ワヤンティームの核となる人物、ホンゴ・ウトモは、この上演がスラムット・グンドノの遺稿に基くものであると語った。「殆ど全部書いてあって、終幕だけがまだだった。今回は、ティームの合意のもとに、グノデウォが回復するように演出した。」上演の合間の言であった。

評　価

①事前事後アンケート

目的：コアメッセージの到達評価

方法：事前、事後に同じ質問内容のアンケートを配布。回答内容を比較。

回答数：196名/約500名（観客）

（インセンティブ：ポカリスエットを配布、くじ引きに参加）

事後のアンケート回答については、無回答が多く、アンケートの目的が十分に伝わっていなかった。（今後の課題）

評　価

<u>アンケート自由記載</u>

・「楽しめたし、伝えられたメッセージは観客にたやすく効果的に受け入れられた。パンフや本を読むほど退屈しない。すごいと思ったのは、医者とワヤン訳がブレンドされていて距離が感じられず、違和感なくマッチしていたこと。この上演のおかげで一般の人が医者に情報を求めやすくなる気がした。（30代女性）

・楽しめる。地域芸術を活性化できるし、政府の任務、とくに健康関係や他の何でも社会に広く伝えることができる。（40-60代女性）

・物語にひかれました。教育的要素が得られます。この人生における善行、悪行など。（40-60代男性）

・オッケー、上演を続けてください。不潔な地域でやれば、結核についてもわかると思います。病院経由ばかりじゃなくて、ワヤン経由でもいいでしょう。
（30代男性）

・とってもユニークですごく楽しめた。インドネシアのワヤンを維持しよう。
（40-60代女性）

評　価

②グループディスカッション（2014年2月23日）

参加者：上演を観て、ボランティアで協力してくれた10名

■ワヤンで啓発をすることに対する評価：

ワヤンそのもののも創造的でとても楽しめた、同時に健康に関する情報と文化の両方を学べた等との声から、楽しみがなら情報を得ることができ、他の健康課題に対する情報提供についても有効と考えられる。

■コアメッセージの理解：

総じてコアメッセージは伝わっていた。しかし、結核は遺伝性であるなど、今回のメッセージ外のところでの誤解も多い。得た情報を個人的な経験と関連付け具体的な質問が多くでたことから、今回は評価のための対象者とのディスカッションであったが、理解を深めるために事後のディスカッションは、有効であることがわかった。

評　価

③　関係者評価会（2014年2月27日）

参加者：13名（PPTIソロ、ソロ市役所、保健所、ダラン、マネージャー、
芹澤先生（ワヤン専門家）、下谷（STBJ）

■上演について：
・子供や若者が楽しめる点が評価された。
・上演時間に対してもさらに考慮が必要
・暴力的なシーンへの考慮が必要
・ストーリーはおおむね理解できたが、分かりづらい部分もあり、ナレーションで説明を加ええるべき。
・医師と看護師の説明（Ｑ＆Ａ）がよかった

■会場について：
・駅前での上演も考えたが、雨季を考慮して、今回は屋根のある会場を選んだ。
・会場の入口には、看板があったが、会場内にはなかった。通りかかりの人にもわかりやすくい環境づくりが大切。

■運営について：
・上演までに十分な準備が必要
・アンケート用のボールペンが届かず、上演が30分遅れた。
・事前の招待客への連絡が不十分で、イベント周知が徹底していないかった
・ソロの建市記念日と重なり、他のイベントも多く開催されていたので、招待客がくることができなかった。
・途中参加者もおり、アンケート回収率を上げるために、「アンケートに答えると景品がもらえる、
・くじ引きに参加できる」といった文言も加えるとよい。

専門家からの評価

・<u>ワヤン専門家の評価</u>
オリジナルのストーリー、演出、音楽は啓発に
効果的であった。
ワヤン・クリ（影絵）、ワヤン・ゴレ（木偶人形劇）、
ワヤン・オラン（演劇）の混合により、いろいろな世代
にアプローチする要素があった。
また、物語の途中で保健所の医師による解説も
よかった。

・<u>E/E専門家の評価</u>
質が良い。制作にあたり、さまざまな関係者が
過程に関わりつくったことに非常に意義がある。
上演後の医療者とのディスカッションも効果がある。

上演後メディアカバレッジ

- 地元新聞3紙（ Solo pos, Jawa pos）による報道
- 世界結核デー（3/24）に地元テレビ局で放映

  TATVとISITV
- 第2回ナショナル・ストップ結核パートナーシップアジアフォーラムでの報告（平山先生）

今後の展望

1）E/Eによる学術的研究を踏まえた評価

2）啓発モデルとしてのインドネシアでの一般化（保健所や学校での展開など）

3）インドネシア以外の文化のある国での展開

協力者

インドネシア保健省、
ストップ結核パートナーシップインドネシア、
ソロ市保健局、地域保健ボランティア、
平山医師（RIT)、河村准教授（熊本大学）、
芹澤薫氏（ガムラン奏者、インドネシア在住）、
演劇グループ：Komunitas　Wayang　Suket
インドネシア結核予防会（PPTI）